

**平成29年度大学教育再生戦略推進費  
「課題解決型高度医療人材養成プログラム」  
申請書**

【様式1】

**事業の構想等**

申請担当大学名 (連携大学名)	慶應義塾大学		
テーマ	病院経営支援に関する 領域	申請区分	単独事業
事業名 (全角20字以内)	ケースとデータに基づく病院経営人材育成		

**1. 事業の構想** ※事業の全体像を示した資料(ポンチ絵A4横1枚)を末尾に添付すること。

(1) 事業の全体構想

①事業の概要等

〈テーマに関する課題〉 大学病院のミッションは、技術革新に支えられた先進的医療の開発と、個人のニーズに即した質の高い医療サービスの効率的提供の両立であり、あわせて地域医療連携の中核としての幅広い役割を果たす必要がある。このように、社会的に高い責務を果たしつつ、持続可能な経営を実現するためには、絶対解の無いと言われる経営課題に対して正面から向き合い、課題解決へ向けて行動できる実践的経営人材の育成が求められている。

〈事業の概要〉 (400字以内厳守)

経営管理研究科が50年の歴史とともに育んできた慶應型ケースメソッドは、いわゆるケーススタディとは異なり、教材(ケース)を用いて学習者同士の討議を繰り返すことで、学習者が主体的に学び、自ら考え実行する実践力を身につける教育手法である。本事業は、革新的な医療技術開発と実践の最前線である大学病院において、構想力、戦略的な意思決定、実行力に富んだ実践的な経営リーダーを育成するため、本事業費によって、慶應型ケースメソッドに則ったケースディスカッションをベースとする病院経営人材育成プログラムを、病院経営人材育成の実績を有する健康マネジメント研究科と経営管理研究科に横断的かつ融合的に構築するものであり、ケース教育開発センターを設置して本事業推進の中核とするとともに、センターを通じてその成果(ケース)を教育手法とともに公開し、他大学・大学病院や地域基幹病院の経営人材育成にも広く資することとする。

## ②大学・学部等の教育理念・使命（ミッション）・人材養成目的との関係

本事業で整備する病院経営人材育成プログラムは、以下に示す研究科の理念と目的に則り、大学病院に求められる技術革新に支えられた先進的医療の開発と、個人のニーズに即した質の高い医療サービスの効率的提供を両立することのできる実践的病院経営人材を養成することを目的とする。

（健康マネジメント研究科学則による人材養成目的）建学の精神に則り、学理および応用を研究教授し、人々の健康に資する保健・医療・福祉の在り方を構想し、科学的方法に基づく高度な実践・マネジメントに求められる深い学識および卓越した能力を培うことを人材の養成および教育研究上の目的とすると定め、当該専攻である公衆衛生・スポーツ健康科学専攻は、保健・医療・福祉等に関連した専門的知識の修得にとどまらず、個人や社会が抱える健康課題を見出す洞察力、課題の背後にある構造・因果関係を推定し仮説として構築するための論理的思考力、万人が納得できる方法で仮説を検証するための分析力、導出した結論を共有・実践するためのコミュニケーション力といったマネジメント力を修得させ、多様性・多文化への配慮と高い職業倫理観にもとづいて社会を先導するリーダーシップを醸成することと定めている。

（経営管理研究科学則による人材養成目的）個としての自立心、他の尊厳を重んずる精神、明確な使命感、卓越した見識、果敢な実行力を合わせ持つ、優れた革新的リーダーを育成することにより、経済社会の発展と進歩に寄与することを目的とすると定め、当該の修士課程MBAプログラムについて、不確実な環境で将来を見通し、ビジョンを持って目標を定め、戦略的な意思決定を行うための経営全般に関する知識と、社会と知識を先導する使命感やマインドセットを持ったリーダーを育成することと定めている。

## ③新規性・独創性

「ケース教育による実践的経営人材の創出」および「データ駆動型経営人材の創出」という、慶應義塾大学の有する実績と強みに基づいたプログラムは、病院経営人材の育成の実績を有する健康マネジメント研究科と経営管理研究科が中心となり、その大学院修士課程を本事業費によってさらに発展させ、大学病院、医学部・医学研究科ならびに協力大学とともに、大学病院経営に重点をおいた新たなコースを設けるもので、「即戦力」にこだわる育成プログラムとして、ケースディスカッションを通じて、自ら考え自ら実行することが出来る姿勢を涵養し、実践できる病院経営リーダーの育成を実現する。また、MBA-MPHデュアルディグリープログラムは、大学院修士課程を連結させて一層高める日本初のプログラムであり、両課程をもち、研究科間の壁が低く、教員同士・学生同士の交流が深い本学に特徴的であり、両者の専門性を兼ね備えた病院経営のプロの育成を目指す取り組みである（2018年度入学者から開始されることが既に決定し、学生募集中。）。

本プログラムの4つの特徴（value）を挙げる。

### ①ケース教育による実践的経営人材の創出

ケースメソッドを他に先駆けて日本に導入した経営管理研究科が有するケース作成技術によって、臨床研究中核病院でもある慶應義塾大学病院のこれまでの経営の経験と、経営管理研究科の実証的な経営アプローチとを融合させたケース教材を開発して効果的な教育プログラムを構築し、現場で力を発揮する経営人材を養成する。

### ②データ駆動型経営人材の創出

健康マネジメント研究科・医学研究科でのデータ科学に基づく医療経営・医療の質へのアプローチと慶應義塾大学病院の医療情報を組み合わせて、これからの医療情報利活用の将来像を先取りした医療データに関するハンズオン型のケース教育を開発し、データ駆動型経営人材を養成する。

### ③多職種協働による経営実践の場

部分最適に陥らず、組織全体の最適化を目指す取り組みとしての経営を実現するため、連携大学病院・連携地域基幹病院のネットワークが協力して、医師ヒエラルキーに陥らない多職種協働・多施設協働の教育の場を構築し、現場でPDCAを回し、マネジメント理論を実践してそのフィードバックを得る機会を設ける。

### ④ケース教育開発センターを通じたケース教育の普及

本事業によって設置するケース教育開発センターは、事業終了後も健康マネジメント研究科・経営管理研究科・大学病院の共同運営のもと継続・発展させ、構築されたケース教育を中心とする大学病院経営人材育成プログラムを公開し、協力大学はもとより、広く他大学・大学病院や医療関係者が利用しやすい環境を構築する。

#### ④達成目標・評価指標

・教育プログラム・コースの立ち上げ時期 平成29年度下期に病院経営イノベーションコースの一部コースを開始し、平成30年より、3コースをすべて開始する  
・教育プログラム・コースの実施数：3コース（①修士（医療マネジメント学）病院経営コースおよび修士（経営学）病院経営コース、②修士課程MBA-MPHデュアルディグリープログラム、③病院経営イノベーションコース（サーティフィケートコース））  
・教育プログラム・コースの履修者数：全体計256  
①修士病院経営コース：医師・歯科医師5/年、その他の関係職種10/年、計15/年・事業終了までに総計60。②MBA-MPHデュアルディグリープログラム：医師・歯科医師2/年、その他の関係職種2/年、計4/年・事業終了までに総計16。③病院経営イノベーションコース：医師・歯科医師、看護師・薬剤師、病院経営事務職、その他（企業等）初年度各5、計20、2年目以降各10/年、計40・事業終了までに総計180  
・ケース教材開発数：初年度4、2年目以降10/年、総計44  
・ケース教育の習得セミナー：毎年1回（30名/回）・事業終了までに5回・150名（参加大学数：連携2機関に加え、公開により、全国の大学・大学病院等からの参加を求める

#### ⑤キャリア教育・キャリア形成支援(男女共同参画,働きやすい職場環境,勤務継続・復帰支援等も含む。)

本事業では、大学病院経営企画室と共同で、具体的なキャリア形成とその支援を行う。その上で、医師・歯科医師が、病院経営の専門性を獲得してミッドキャリアチェンジを図りやすくするため、健康マネジメント研究科では、大学病院と同一のキャンパスにおいて開講曜日や開講時期を集中させており、勤務継続に配慮したコース設計を行っている。さらに、病院長のリーダーシップの下、医学部卒業後教育担当とともにキャリア形成や復帰支援の仕組みを整備する。その他の職種では、大学病院事務局長のリーダーシップの下、病院職員大学院派遣制度を整備しており、看護師、薬剤師に加え、病院経営担当職員の修士課程入学についても制度化し、キャリア形成支援を図る予定である。

### (2) 教育プログラム・コース → 【様式2】

## 2. 事業の実現可能性

### (1) 事業の運営体制

#### ①事業の実施体制

本事業は、健康マネジメント研究科を主管研究科に、3研究科、大学病院および連携大学にわたることから、各研究科委員長、病院長、病院事務局長および連携大学代表者から構成されるプログラム管理委員会を設け、事業の統括を行う。修士課程の修了については、各研究科委員会によって決定されるが、病院経営コース部分のカリキュラム策定等は、本管理委員会で調整を図る。ケース教育開発センターは、健康マネジメント研究科に設置して、経営管理研究科とともに運営を行い、本事業費によって、MBA取得後に実際に医療経営の経験を有する医師等をケース教材開発を担う特任教員に任用し、事業の推進を図る。

#### ②事業の評価体制

本事業におけるケース教育については、受講者による授業評価を実施して、常に手法や内容の改善を図る。また、大学病院経営ボードメンバーを含む病院経営者や医療経営コンサルタント、医療系企業経営者等からなる外部有識者に本事業の教育評価委員を委嘱し、内容の評価とともに、改善へ資するアドバイスを受ける。

#### ③事業の連携体制（連携大学、自治体、地域医療機関、民間企業等との役割分担や連携のメリット等）

協力する東邦大学とは、2017年4月より、一財)社会医学系専門医協会による「社会医学系専門医」制度の下、病院経営人材の基礎となる専門医研修プログラムを合同で開始しており、本事業の内容についても連携して構築・活用を進められる状況にあることから、プログラム管理委員会を通じて連携を深め、多様な病院経営人材のニーズを共有するとともに、円滑な受講へ向けた調整を図る。また本大学病院は、臨床研究中核病院として、地域の大学病院や基幹病院との連携の中心として、医療技術開発や人材育成についての役割分担を促進する役割を有していることから、病院長・副病院長を含む経営人材について密な人的交流をもつ地域基幹病院や自治体とも、関連病院長会議等を通じて連携を図る。さらに、今後の病院経営においては、医療関連企業（医薬、医療機器メーカーおよび卸業界や医療情報関連企業）との相互理解による新しい経営展開も求められることから、本事業への参画を促し、人材育成における連携を図る。

## (2) 事業の継続・普及に関する構想等

### ①事業の継続に関する構想

本事業は、健康マネジメント研究科および経営管理研究科の既存の修士課程を発展させ、病院経営に関するプログラムを開発して実施する構想であり、プログラムの継続を前提としている。教育プログラム開発のコア組織であるケース教育開発センターは、事業終了後も、健康マネジメント研究科と経営管理研究科が共同して運営する。また、病院長および病院事務局長を中心に、事業によって養成した人材を実際に経営に活用するためのキャリア形成について具体的に検討する。

### ②事業の普及に関する計画

地域大学連携については、地域内の多くの大学、地域基幹病院と組織的にも人的にも交流を有していることから、東邦大学とともに事業の立ち上げ・プログラムの整備を図った後は、連携を拡げ、とくに若手医師の新しいキャリアパスのモデルとして普及を図る。さらに、本事業で開発されたケース教材は、ケース教育開発センターのケースライブラリーを通して、事業実施中のみならず、事業終了後もケース教育の手法とともに公開し、大学や地域の枠組を越えて、日本全体の病院経営人材育成におけるケース教育の普及を担う。

## 3. 事業実施計画

### (1) 事業実施計画

29年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ケース教育開発センター開設準備（8月）・開設（9月）</li> <li>② プログラム管理委員会の開催（9月、以降、3か月ごと開催）</li> <li>③ 修士課程入学試験広報における本事業によるプログラムの周知（9月以降）</li> <li>④ ケース教材の開発（9月以降）</li> <li>⑤ 修士課程入学試験（健康マネジメント11月、1月；経営管理10月、2月）</li> <li>⑥ 病院経営イノベーションコース（サーティフィケートコース）開講（1-3月）</li> </ul>
30年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>① プログラム管理委員会の開催（3か月ごと開催。外部有識者含む）</li> <li>② ケース教育開発センターのケース教材開発（継続）とライブラリー公開</li> <li>③ 修士課程開講（4月）</li> <li>④ 病院経営イノベーションコース（サーティフィケートコース）開講（春期・夏期・秋期・冬期、各集中開講）</li> <li>⑤ 修士課程入学試験（健康マネジメント7月、11月、1月；経営管理10月、2月）</li> </ul>
31年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>① プログラム管理委員会の開催（3か月ごと開催。外部有識者含む）</li> <li>② ケース教育開発センターのケース教材開発（継続）とライブラリー公開</li> <li>③ 修士課程開講（4月）</li> <li>④ 病院経営イノベーションコース（サーティフィケートコース）開講（春期・夏期・秋期・冬期、各集中開講）</li> <li>⑤ 修士課程入学試験（健康マネジメント7月、11月、1月；経営管理10月、2月）</li> </ul>
32年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>① プログラム管理委員会の開催（3か月ごと開催。外部有識者含む）</li> <li>② ケース教育開発センターのケース教材開発（継続）とライブラリー公開</li> <li>③ 修士課程開講（4月）</li> <li>④ 病院経営イノベーションコース（サーティフィケートコース）開講（春期・夏期・秋期・冬期、各集中開講）</li> <li>⑤ 修士課程入学試験（健康マネジメント7月、11月、1月；経営管理10月、2月）</li> </ul>
33年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>① プログラム管理委員会の開催（3か月ごと開催。外部有識者含む）</li> <li>② ケース教育開発センターのケース教材開発（継続）とライブラリー公開</li> <li>③ 修士課程開講（4月）</li> <li>④ 病院経営イノベーションコース（サーティフィケートコース）開講（春期・夏期・秋期・冬期、各集中開講）</li> <li>⑤ 修士課程入学試験（健康マネジメント7月、11月、1月；経営管理10月、2月）</li> </ul>
34年度 [財政支援 終了後]	<ul style="list-style-type: none"> <li>① プログラム管理委員会の継続</li> <li>② ケース教育開発センターにおけるケース教材の開発と公開の継続</li> <li>③ 修士課程における病院経営コースの継続（病院経営イノベーションコース（サーティフィケートコース）を含む）</li> </ul>

(2) 事業実施期間に係る補助事業予定額

(単位：千円)

年 度		29年度	30年度	31年度	32年度	33年度
補助事業予定額						
内訳	補助金申請予定額					
	自己負担予定額					

(3) 平成29年度の補助金申請予定額の積算内訳

(単位：千円)

経費区分	金額	積算内訳
合計	0	

4. 同一又は類似の事業（該当が無い場合は「なし」と記入）

他の補助金等の名称	
選定年度	
取組名称	
取組の概要(5行以内)	
今回の申請との関連性(5行以内)	

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科・経営管理研究科・慶應義塾大学病院						
教育プログラム・コース名	修士（医療マネジメント学） 病院経営コース 修士（経営学） 病院経営コース						
対象者	慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科・経営管理研究科修士課程						
修業年限（期間）	2年（医療マネジメント学において早期修了制度適用の場合、1年）						
養成すべき人材像	各修士課程の理念と目的に則った養成人材像（健康マネジメント研究科：科学的方法に基づく高度な実践・マネジメントに求められる深い学識および卓越した能力を有する人材。経営管理研究科：不確実な環境で将来を見通し、ビジョンを持って目標を定め、戦略的な意思決定を行うための経営全般に関する知識と、社会と知識を先導する使命感やマインドセットを持ったリーダー）を基盤と、大学病院に求められる技術革新に支えられた先進的医療の開発と、個人のニーズに即した質の高い医療サービスの効率的提供を両立することのできる実践的病院経営人材を養成することを目的とする						
修了要件・履修方法	各修士プログラムのいずれかの修了要件（健康マネジメント研究科30単位、経営管理研究科60単位）を満たし、かつ病院経営コース10単位相当を含むこと						
履修科目等	修士（医療マネジメント学） <必修科目>健康マネジメント概論、医療政策管理学、ヘルスサービス財務管理論、医療経営戦略論、クオリティマネジメント、サービスデータサイエンス（各2単位） <主な選択科目>ヘルスサービス経営倫理学、リスクマネジメント論、医療経済学（各2単位） 修士（経営学） <必修科目>会計管理、マーケティング、財務管理、総合経営、組織マネジメント、経済・社会・企業、生産政策、経営科学（各4単位） <主な選択科目>人的資源戦略、ヘルスケアポリシー、ヘルスケアマネジメント、医療経済学、リスクマネジメントと危機管理（各2単位）						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	各修士課程が有する人材育成の目的に適った資質と能力を背景として、病院経営コース（10単位相当）では、双方の学生が合同で授業に参加してケース討議を繰り返すことにより、多様な経験に基づく議論が共有され、単一課程のみでは得られない視点の獲得が可能となる						
指導体制	健康マネジメント研究科指導教員と経営管理研究科指導教員による病院経営コース運営委員会を設置し、同コースを共同で開講して指導する						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	修士号に加え、サーティフィケート（病院経営コース）を取得することにより、病院経営の実務やコンサルテーション業務に就くことを想定している						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	医師、歯科医師	0	5	5	5	5	20
	その他の関係職種	0	10	10	10	10	40
							0
							0
	計	0	15	15	15	15	60

※教育プログラム・コースごとに記入してください。

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科・経営管理研究科・慶應義塾大学病院						
教育プログラム・コース名	MBA-MPHデュアルディグリープログラム						
対象者	慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科・経営管理研究科修士課程						
修業年限（期間）	3年						
養成すべき人材像	両修士課程での教育を通じて、すべての人々の健康と生活の質の維持・向上を目指し、地域から地球規模にまで広がる健康課題の解決を図ることのできる専門的知識・技能と、課題解決に導くコミュニケーションやマネジメントの能力（MPH）と、不確実な環境で将来を見通し、ビジョンを持って目標を定め、戦略的な意思決定を行うための経営全般に関する知識と、社会と知識を先導する使命感やマインドセット（MBA）を兼ね備えた人材を養成し、大学病院を含むわが国の病院経営にイノベーションをもたらし、グローバル社会で通用する病院経営の中核リーダー人材を養成する						
修了要件・履修方法	修士（経営学）60単位、修士（公衆衛生学）30単位をそれぞれ修了し、かつ病院経営コース10単位相当を含むこと						
履修科目等	修士（公衆衛生学）＜必修科目＞疫学、生物統計学、医療政策管理学、健康行動科学、環境産業保健学（各2単位）＜主な選択科目＞ヘルスサービス経営倫理学、リスクマネジメント論、医療経営戦略論（各2単位） 修士（経営学）＜必修科目＞会計管理、マーケティング、財務管理、総合経営、組織マネジメント、経済・社会・企業、生産政策、経営科学（各4単位）＜主な選択科目＞人的資源戦略、ヘルスケアポリシー、ヘルスケアマネジメント、医療経済学、リスクマネジメントと危機管理（各2単位）						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	MPH教育によるすべての人々の健康と生活の質の維持・向上を目指す知識・能力の獲得と、MBA教育による不確実な環境での戦略的な意思決定を行うための経営全般に関する知識・能力の獲得の両者を通じ、グローバルに通用する使命感、倫理観、戦略性が経営実践能力とともに獲得される						
指導体制	健康マネジメント研究科指導教員と経営管理研究科指導教員による病院経営コース運営委員会を設置し、同プログラムを共同で開講して指導する						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	病院経営の中核リーダー人材となることを想定している						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	医師、歯科医師	0	2	2	2	2	8
	その他の関係職種	0	2	2	2	2	8
							0
	計	0	4	4	4	4	16

※教育プログラム・コースごとに記入してください。

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科・経営管理研究科・医学研究科・慶應義塾大学病院						
教育プログラム・コース名	病院経営イノベーションコース（サーティフィケートコース）						
対象者	慶應義塾大学の各研究科大学院生及び医師、看護師、薬剤師、病院経営事務スタッフ等、全国の大学・大学病院人材、医療関連企業人材等						
修業年限（期間）	修了証（履修証明書）の交付（2単位5科目、計10単位相当）						
養成すべき人材像	ケース討議を通じ、先進的医療の開発・実践拠点たる大学病院の経営に際し、創発性に富みかつ課題発見と解決力・実行力のある実践的病院経営人材を養成することを目的とする						
修了要件・履修方法	本教育コースで定める科目について、5科目計10単位相当以上を履修すること						
履修科目等	病院経営意思決定ケース授業（2単位） 2科目 データサイエンスに基づく病院経営課題解決型ケース授業（2単位） 2科目 ケース教育習得授業（2単位） 1科目						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	病院経営の意思決定ケース教材と、DPCやNDB等を含む医療データの経営活用に関するハンズオン型ケース教材の両輪により、すべてをケース教育によるコースを実施し、「即戦力」にこだわる育成プログラムとして、自ら考え自ら実行することが出来る姿勢を涵養し、批評家ではなく、病院経営の実践家の育成を実現する						
指導体制	ケース教育開発センターを含む研究科教員と、病院各組織の長との共同指導体制を敷くことにより、きめ細かい指導を実施する						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	各所属組織・部署のリーダーとなり、さらに経験を積むことによって、経営全般にわたるリーダー候補となることを想定している						
受入開始時期	平成30年1月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	医師	5	10	10	10	10	45
	看護師、薬剤師	5	10	10	10	10	45
	病院経営事務職	5	10	10	10	10	45
	その他（企業等）	5	10	10	10	10	45
	計	20	40	40	40	40	180

※教育プログラム・コースごとに記入してください。

# ケースとデータに基づく病院経営人材育成プログラム

(提案機関：慶應義塾大学)

## 病院経営 人材の育成 と育成手法 の普及

ケース教材開発  
+  
ケース教育の実践

## 養成人材像

大学病院に求められる技術革新に支えられた先進的医療の開発と、個人のニーズに即した質の高い医療サービスの効率的提供を両立することのできる実践的病院経営人材。

## 教育の特徴

1. 多職種協働のケース討議と経営現場でのインターンシップを通じた実践的な経営リーダー教育により、評論家的でなく、自ら考え実行する実践的な病院経営人材を創出。
2. 健康マネジメント研究科・大学病院の医療マネジメント人材育成手法と経営管理研究科のケース教材作成技術の融合により、大学病院経営人材の教育手法を開発・普及。
3. 変革期にある医療情報活用の将来像を見据え、データに基づき経営と医療の質の改善を図る教育手法を開発・普及。

## データに基づく 経営・ 医療の質 の革新

医療情報基盤整備  
+  
データサイエンス教育

経営管理研究科  
MBA

健康マネジメント研究科  
MPH・修士（医療マネジメント学）

医学部・医学研究科  
医療政策・管理学

大学病院  
病院事務局（経営統括）

プログラム管理委員会（3研究科委員長・病院長・病院事務局長、協力機関）

協力機関：東邦大学

ケース教育開発センター（仮称）

大学病院医療の質・コミュニケーションセンター  
（病院情報利活用基盤）

### 修士学位プログラムへの病院経営コース設置

- ・ MPH    ・ MBA    ・ 修士（医療マネジメント学）
- ・ MBA-MPHデュアルディグリープログラム

### 病院経営サーティフィケートコース設置

- ・ 病院経営意思決定ケース およびデータサイエンスに基づく病院経営課題解決型ケース 教育コース
- ・ ケース教材開発・ケース教育 習得コース

## 経営改革に資するクオリティ・データサイエンス

連携  
大学

医師、歯科医師を中心に、看護師、薬剤師、病院事務局（経営企画・医事統括担当等）等から構成される経営チーム候補人材を対象とする経営リーダー教育と新しいキャリアパス形成

地域  
基幹病院  
ネット  
ワーク